

たつおか 四季報

令和3年度秋号 (NO. 45)
発行：竜丘地域自治会
編集：地域振興委員会
問合せ先：(0265) 26-9303

ごみの分別は適正に ごみ出しの基本ルールを守りましょう！

私達の生活に欠かすことのできないごみ問題、ごみの集積所の管理、リサイクルステーションの運営は、コロナ禍であっても通常通り行われています。

地区の皆様には日頃より、ごみの分別、ごみ出し等にご理解ご協力いただきありがとうございます。

竜丘地区には50箇所の集積所があります。各々の集積所でルールの違いがあり、抱える問題にも違いがあります。時間外のごみ出しによる猫の被害、外国人への指導が困難であったり、他地区からのごみ出しにより悩まされている場所もあります。状況に応じたごみ出しの指導をしていきたいと思えます。

リサイクルステーションは地区内5箇所で2ヶ月に一度開設しています。時間は7時半より9時となっていますが、時間前の持ち込みがあります。ルールを守って持ち込んでいただけるよう引き続き指導していきます。また、利用者の皆さんのリサイクルへの意識の高さには感心させられます。



埋立ごみ組成調査の様子

6月に飯田市最終処分場で「埋立ごみ」の組成調査を実施しました。竜丘地区内のごみ集積所より無作為に回収した埋立ごみ10袋の分別状況を確認しました。この結果「埋立ごみ以外のごみ」の混入が47%あり（令和2年度飯田市全体30%）、その内の86%がリサイクルステーションへ出すべきガラスびん（74%）と資源ごみとして出すべき金属（12%）でした。ごみ出しの際は、『ごみ・リサイクルカレンダー』を確認し、ごみ出しの基本ルールを守りましょう。

地区の皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。（環境委員長 下平 武彦）



分別されずに
収集されないごみ

森を大切に！

この度、竜丘地区財産区議長に選ばれました駄科区の澤柳です。議員は駄科区3名、長野原区2名、時又区2名、桐林区2名、上川路区1名の定数10名で任期は4年です。年齢は64歳から72歳までのさまざまな職業を経験された方の集りです。幸い森林組合におられた方が1名いますので作業における管理面、安全面のノウハウについては力強く感じます。

第1回目の整備作業を8月末に臼井林の広場で行いました。皆、刈払い機の扱いが上手で作業がはかどり頼もしく感じました。今年に入ってから、ウッドショックが起り国産材にも動きが出て来ているとのことですが、最近の大雨で林道が崩壊して復旧に時間と大金がかかるとの報道もありました。また、地球温暖化を抑えるため森による二酸化炭素の吸収という面からも財産区の管理の大切さがあります。野外作業が主なので、全員体調に留意して安全な作業をしてまいる所存です。（竜丘地区財産区議長 澤柳 眞治）



新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をおねがいます

3つの「密」を避け ましょう！

- ①換気の悪い
密閉空間
- ②多数が集まる
密集場所
- ③身近で会話や
発声をする
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い！

※3つの条件のほか、共同で使う物品には消毒などを行ってください。

竜丘保育園園児との芝生植え

保育園の園庭の芝生化・・・と聞いても、多くの方は「それ何？」と思われるのではないのでしょうか。私自身もこのプロジェクトに参加するまでは、全く知りませんでした。



この事業は、自治会で取り組む太陽光発電での売電収入の還元として行われているものです。平成28年から実施されており、昨年までの間に約46㎡が芝生化されました。本年度は7月15日に、チームによる土地改良作業後、園児・保育士さん達と一緒に芝生植えを行いました。強い日差しの中でしたが、元気な園児の皆さんと楽しく作業をすることができました。この「四季報」が届く頃には芝生はしっかり根付いていることと思います。

(地域振興委員会 土地利活用プロジェクトリーダー 勝野 幸広)

遊休農地で落花生作り

地域振興委員会では、「遊休農地の利活用」の一環として竜丘自治振興センター近くの畑をお借りして、昨年に引き続いて落花生を作っています。

植え付けは、去る5月18日に竜丘保育園の全園児48名と役員とで、2種類の110本を植えました。

植え付け直後の日照りで枯れてしまう苗も出ましたが、地域の方が補植をしてくれ、また、畝間の草取りもボランティアで手伝っていただきました。

9月中・下旬に黄色の花が終わると花のもとから「子房柄」が地中へ伸びだして落花生が実ります。10月になると葉っぱや茎が黄変し収穫時期となります。

地域自治会は、竜丘地区内の遊休農地を減らすことと、園児たちが土に触れ、植物を育てる体験をしてもらうことの2つの意義で、この取り組みを行っています。(地域振興委員会 地域資源維持・活用プロジェクトリーダー 笹岡 富男)



佐藤新市長を迎えて懇談会

9月17日に佐藤新市長を迎えて市政懇談会が開催されました。

当日の懇談は竜丘の基本構想の大事なテーマであるとともに、新市長が日本一住みたいまちにしたいとの思いもあり、「これからの子育て環境に望むこと～地域との交流～」をテーマとしました。冒頭の市長挨拶のなかで、竜丘で思い浮かべるのは公民館と自由画です。と、長い歴史を重ねた竜丘の公民館活動を評価されました。桐林クリーンセンターの受け入れのお礼、天竜川鷲流峡復活プロジェクト等の活動もしっかり御存知で、竜丘への期待が感じられました。

懇談会では自治会長から懇談会開催のお礼、歓迎の挨拶のあと、地域自治会やボランティアが保育園児と協働作業で食育活動に関わる事業報告がありました。公民館からは、木下紫水が取り組んだ自由画教育や乳幼児教育、そのお母さんたちの母の学校など百年も前の活動の紹介がありました。また、人形劇文化の大切さ、取り組み等の報告がありました。竜丘の2つの保育園それぞれの取り組みや事業の報告があり、乳幼児、障がい児、早朝～延長保育、親子教室、野外保育等ご苦労がある中で、大切な取り組みが伝わってきました。

フリートークに入り、それぞれの保育園の保護者からアンケートの報告がありました。いろんな取り組みに喜びや感謝の言葉があり、要望等も多々ありました。児童館館長からも、日々の子供達と大人の交流の大切さのいいお話がありました。

最後に自治会長と市長の講評がありましたが、コロナ禍の中での、人数制限、時間制限がありましたが、多くの保護者に参加して頂きたい内容の濃い懇談会でした。(竜丘地域自治会 副会長 小林 伸)

